

科 目 名	病 理 学【理学・作業】					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	植 本 純 一						
開 講 年 次	2	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	総論では、疾病(傷病・病気)の本態を理解するために必要な、原因や病変の成り立ちを学習する。 各論では、人体の臓器、器官に特有な疾病について学習する。						
授 業 の 到 達 目 標	病理学とは、生体に起こる疾病の本態を研究する学問である。生体には防御機構があり、恒常性が保たれている。疾病とは恒常性が破綻した状態であり、始まりと終わりがある一連の過程である。						
学 習 方 法	講義(テキスト使用)						
テキスト及び 参考書等	「わかりやすい病理学」改訂第5版 編集 岩田隆子 編集 恒吉正澄・豊島里志・高橋睦夫 南江堂						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				90	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度					○	10	
その他							
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	退行変性、代謝疾患、循環障害、進行性病変						
第 2 週	炎症、免疫、感染症						
第 3 週	腫瘍、先天異常、老化、病因						
第 4 週	循環器系疾患の病理						
第 5 週	呼吸器系疾患の病理						
第 6 週	消化器系疾患の病理－上部消化管の疾患						
第 7 週	消化器系疾患の病理－下部消化管の疾患						
第 8 週	消化器系疾患の病理－肝臓の疾患						
第 9 週	消化器系疾患の病理－胆嚢、膵臓の疾患						
第 10 週	内分泌系疾患の病理						
第 11 週	泌尿器系疾患の病理、生殖器系疾患の病理						
第 12 週	造血器系疾患の病理、神経系疾患の病理						
第 13 週	感覚器系疾患の病理、皮膚疾患の病理						
第 14 週	運動器系疾患の病理						
第 15 週	疾患別リハビリテーション対象疾患						
第 16 週	試験						
備 考							